

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1310410
施設名（園名等）	明星幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

ガーデニングタイム

<テーマの設定理由>

植物は園児たちが日常生活で触れる身近なものであり、日頃から園庭内の草花や樹木に興味を持つ姿が見られることから、園庭の植栽環境を整備し四季折々の植物の栽培などを行うことで園児たちの思考力・創造力・知的好奇心等の探究心を育むため設定した。

「学びの園庭」構想のもと、設置基準の倍ほどの広さがある園庭を活用しながら、園児が自然とのふれあいを通じて主体的な学びを深める環境づくりを行う。

### 2. 活動スケジュール

実施月	園児プログラム	教員・講師スケジュール
4月	・植物の水やり、観察	花壇メンテナンス プランター・コンテナ設置
5月	・押し花制作準備（花摘み） ・植物の水やり、観察	プランター植栽
6月	・泥団子の中に種まき（種団子制作） ・野菜収穫・会食体験 (年少：きゅうり・ミニトマト、年中：枝豆・オクラ、 年長：なす・ピーマン) ・植物の水やり、観察	園庭手入れ
7月	・押し葉制作 ・野菜収穫・会食体験 ・植物の水やり、観察	園庭手入れ 教員研修
8月	・植物の水やり、観察	園庭手入れ
9月	・藍染体験 ・押し花アート制作 ・植物の水やり、観察	園庭手入れ、花苗植え付け
10月	・球根の植え付け ・植物の水やり、観察	園庭手入れ、花苗植え付け
11月	・植物の水やり、観察	園庭手入れ、花苗植え付け
12月	・植物の水やり、観察	園庭手入れ
1月	・野鳥の巣箱作り・設置 ・植物の水やり、観察	園庭手入れ、花苗追加
2月	・押し花アート制作 ・植物の水やり、観察	園庭手入れ
3月	・植物の水やり、観察	園庭手入れ

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ①四季折々の植物の栽培
- ②野菜の収穫
- ③食育
- ④植物看板設置
- ⑤鳥の巣箱、看板設置
- ⑥押し花・押し葉・種団子・絵画の制作

- ・生活の中で目に留まりやすいよう、戸外遊びへの動線上にプランターやコンテナを設置した。
- ・栽培用コンテナを大きな木製のものに変更し、園児が直接触れやすい環境を整えた。
- ・四季折々の草花を植え、園児が自然の移り変わりを感じられる場を提供した。
- ・トウモロコシやじゃがいもなどの身近な苗を準備した。
- ・五感を刺激するよう、香りや手触りが異なるハーブ類を追加した。
- ・睡蓮鉢を設置することにより、水辺の生き物や植物の観察ができる環境を設定した。
- ・植物の生長段階を写真やイラストなどで伝えたり、『どうやって生長すると思う?』などと疑問を投げかけたりすることで、子どもたちの関心につながった。
- ・室内での制作や鳥の専門家によるレクチャーなどを行い、子ども同士で気づきや発見を話し合えるような環境を設定した。



#### 4. 振り返り

##### <保護者アンケート（抜粋）>

- ・広い園庭と広い学園内のお散歩などで日常的に季節を感じ、植物や昆虫に触れる機会が多く、家に帰ってきて沢山お話ししてくれます。植物やお野菜は土の中でどうなっているんだろう、どうやって育つんだろう、花は何色だろう、それを実際にお友だちと見て触れて学んでいる点が特に良いと感じています。
- ・ガーデニングタイムでの成長観察や収穫体験、会食だけでなく、園庭のみかんを収穫して味わうといった身近な事柄を五感で学べる機会が豊富にある点に魅力を感じます。こうした実体験を通して、豊かな感性が育まれているなと思います。
- ・ガーデニングで野菜やお花を育てたり、昆虫の観察で情操教育に良いと思いました。
- ・ガーデニングタイムで植物に対する興味がわいた。

##### <まとめ>

- ・講師の協力のもと、園児が自然と触れ合いながら探究心を育む環境づくりが順調に進んだ。
- ・体験型プログラムの充実や園庭の多様な活用を通じて、子どもたちが主体的に学び、協力しながら活動する姿が多く見られた。子どもたちが様々な発見をしながら、動植物に触れる姿がたくさん見られた。
- ・今年度初の試みである巣箱の設置では、なかなか興味を持たない子も、積極的に鳥を観察したり、鳴きまねをしたりして、親しむ姿が見られた。
- ・日当たりが良好すぎるため、長期休暇中の水やりや植物の選定といった課題も明らかになった。
- ・次年度以降は、教育プログラムとの連携強化、植物の選定・管理見直しを行いながら、「学びの園庭」をさらに充実させていくことが求められる。
- ・2026年度は東側園庭の整備を進め、より多様な学びの機会を提供できる環境づくりを行っていく計画である。また、本園庭整備事業終了後も、日々の活動が継続できるよう、活動運営体制の整備を進め、充実した園庭活用へとつなげていくことが重要であると考えている。